



実践経営学会会長 **板倉 宏昭**
(東京都立産業技術大学院大学)

ウクライナや中東における紛争の長期化はエネルギー価格の不安定さをもたらし、サプライチェーンや企業経営に深刻な影響を与え続けています。加えて、生成 AI の急速な普及が産業構造そのものを変えつつある今、経営環境をめぐる不確実性はかつてないほど増えています。こうした時代にあって、現場に根ざした実践経営学の知見はますます重要性を帯びていると感じております。

昨年度は、新たなフォーラム制度のもと、3つのフォーラムを開催いたしました。5月には東京都立産業技術大学院大学において、関東支部とスタートアップ・アクセラレーター研究所の共催による「スタートアップ・アクセラレーターフォーラム」を開催し、64名の方にご参加いただきました。3月には金沢星稜大学を会場に「北陸フォーラム」を開催し、北陸の研究者5名による多彩な研究報告と活発な質疑応答が展開されました。野林晴彦支部長・平泉沙由里事務局長をはじめとする北陸支部の先生方の献身的なご運営に、この場をお借りして感謝申し上げます。そして10月には、フォーラム制度の一環として生成 AI 研究部会が発足しました。上武大学の関川弘先生が「AIの勉強会を学会の枠組みで開催できないか」とご提案くださったことがきっかけで、すでに3回のオンライン開催を重ね、会員・非会員を問わず毎回活発な意見交換が行われています。

フォーラムは会員以外の方もご参加いただけることが特徴です。これをきっかけにご入会くださった方もおられ、学会を広く知っていただく機会として着実に成果を上げています。また、会員の皆様からのご提案をもとに新たな研究の場を立ち上げることができるのも、フォーラム制度の大きな魅力です。「こんな研究会をやりたい」というお考えをお持ちの方は、ぜひ学会事務局までお声がけください。

1967年の設立以来、本学会は長い歴史を積み重ねてまいりましたが、近年は会員数の確保、とりわけ地方における会員層の拡大が課題となっています。フォーラムという開かれた場を通じて、一人でも多くの方に本学会の魅力をお伝えしていきたいと考えております。

今年の全国大会は、8月28日(金)から8月30日(日)、富山県高岡市の高岡法科大学(実行委員長:八坂徳明教授)で開催いたします。高岡は「加賀百万石」の文化圏を支えた歴史ある城下町であり、400年以上の歴史を誇る高岡銅器をはじめとする金属工芸の産地として知られています。1924年(大正13年)には官立第13高商(高岡高商、後の富山大学経済学部)が設立されるなど、「商都」として長い歴史を刻んできた都市です。モノづくりと商いの伝統が息づくこの地で、実践経営学をめぐる知的交流を深めていただければ幸いです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

不確実な時代だからこそ、実践に根ざした知の共有と人と人とのつながりに価値があると信じています。本学会は伝統を礎としながら、時代の変化に応じた新たな活動を模索し続けてまいります。会員の皆様おひとりおひとりのご参加とご協力が、学会をつくる力です。引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ご挨拶

第69回全国大会実行委員長

八坂 徳明（高岡法科大学）

第69回実践経営学会全国大会を富山県高岡市において開催できますことを、大変光栄に存じます。高岡は加賀前田家2代当主前田利長が築いた城下町として発展し、高岡銅器や高岡漆器に代表される伝統産業と豊かな歴史文化を有する地域です。また、日本海側有数の港町である伏木を擁し、古くから国内外との交流の拠点として発展してきました。

本大会の開催校である高岡法科大学は、地域社会と連携した教育研究を重視し、多くの人材を地域に送り出してきました。しかし近年、少子化による18歳人口の減少や都市部への学生流出の影響を受け、2025年度以降の学生募集を停止し、2028年春頃を目途に大学を閉校する方針が公表されています。

このような状況の中で本学において全国大会を開催することは、地方大学の現状と役割を改めて考える重要な機会になると考えております。本大会が、地域社会と大学の未来を考える有意義な議論の場となることを願っております。

統一論題：「地域活性化と地方大学の役割」

解題

本大会の統一論題は「地域活性化と地方大学の役割」です。人口減少と地域経済の縮小が進む中、地方大学は人材育成の拠点であると同時に、地域社会における知的基盤として重要な役割を担っています。一方で、少子化や都市部への人口集中の影響により、多くの地方大学が経営的に厳しい状況に直面していることも事実です。

本大会では、地方に所在する大学と自治体の立場から、地域社会と大学の相互関係を多角的に検討します。地方大学が地域経済にどのような波及効果をもたらし得るのか、また大学自身の持続可能性をどのように確保していくのかについて議論を深めます。地方大学の存続や再編の問題も含め、地域活性化の視点から大学の新たな役割と可能性を探ることを本論題の目的としています。

大会プログラム

【プログラムの概要】 詳細につきましては、6月の会報にてご案内いたします。

8月28日(金)	午後：エクスカージョン 夕刻：常任理事会、理事会
8月29日(土)	午前：自由論題 午後：1. 開会式 2. 統一論題シンポジウム（ディスカッション・質疑） 夕刻：研究・情報交換会
8月30日(日)	午前：自由論題（終了後、会員総会）

会 場：高岡法科大学

住 所：〒939-1193 富山県高岡市戸出石代 307-3

国内各地から富山県高岡市までのアクセスについては、高岡市観光ポータルサイトにて確認ください。

【高岡市観光ポータルサイト】 <https://www.takaoka.or.jp/access/>

交通機関

あいの風とやま鉄道 高岡駅から

バ ス：高岡駅北口⑦番のりばからから 28分、世界遺産バス「白川郷行」、「能作前」下車徒歩 2分

タクシー：高岡駅から約 19分（約 4,600円）

JR 新高岡駅

バ ス：新高岡駅南口④番のりばから 13分、世界遺産バス「白川郷行」、「能作前」下車徒歩 2分

タクシー：新高岡駅から約 13分（約 3,500円）

*土日は本学行き路線バスは運行していません。また、世界遺産バス「白川郷行」も運行便数は限られていますので、事前に本学ウェブサイト（<https://www.takaoka.ac.jp/access>）でご確認ください。

【ご案内】

当日はプログラムに合わせて無料学園バス（定員 50名）を運行します。高岡駅・新高岡駅が停留所となりますので、宿泊施設をお選びいただく際の目安としてください。

なお、例年 9月 1日～9月 3日まで富山県富山市八尾（やつお）町で、越中八尾 おわら風の盆 イベントが開催されます。宿泊は早めのお手配を推奨いたします。

第69回全国大会 自由論題報告者の募集について

第69回全国大会における自由論題報告者を下記の要領で募集いたします。多くの会員の皆様のご応募をお待ちしております。

1. 応募資格

- (1) 会員であること（非会員との共同報告は認められておりませんので、応募に際しては入会手続きをお願いいたします）。
- (2) 2025年度までの年度会費に未納がないこと（共同報告者も同じ）。
- (3) 2026年度会費が、報告論文の提出期限2026年6月30日(月)までに納入されていること（共同報告者も同じ）。

2. 応募方法

下記の項目を明記の上、下記の「実行委員会アドレス」へお申し込みください。メールの件名は「JSAM 第69回大会自由論題報告応募」としてください。共同報告の場合は、共同報告者の(1)、(2)、および主たる報告者の(5)についても明記してください。なお、報告日時のご希望はお受けできません。

- (1) 氏名（ふりがな）
- (2) 所属機関名・肩書（大学院生の場合は「課程」を明記）
- (3) 報告テーマ
- (4) 報告論文の概要（400字程度）およびキーワード（3～4語）
- (5) 連絡先（メールアドレス、郵便番号、住所、電話・FAX番号）

※Eメールを日常使用されない方は、期限までに大会実行委員会あてに郵送でご応募ください。

※自由論題報告は、8/29（土）、および8/30（日）午前を予定しています。

3. 応募期限 2026年5月25日（月）17:00 必着

※これを受けて、常任理事会へのプログラム案の策定、その他の事務手続きに入りますので、期限厳守でお願いいたします。

4. 報告論文の提出期限 2026年6月30日（火）23:00 必着

提出期限までに報告論文が届かない場合には、『実践経営学研究』への掲載ができなくなるとともに、大会プログラムに報告予定が記載されていても、大会当日の報告は認められないことになっております。

5. 報告論文の提出

本学会の全国大会におきましては、フルペーパーの公式論文集『実践経営学研究』を刊行しております。本年度より、従来の印刷配布に代えて電子公開といたします。大会開催までに学会ウェブサイト上に掲載いたします。

報告者は、作成した報告論文を下記実行委員会アドレスまで、メール添付にてお送りください。メールの件名は「JSAM 第69回大会報告論文送付」としてください。

また、編集作業の都合上、報告論文はWordによる作成をお願いいたします。校正の機会は設けておりません。学会HPよりWordファイルの雛形をダウンロードしてください。

実行委員会アドレス jsam69.ronbun@gmail.com

6. 報告論文の執筆要領（学会ホームページにもあります）

- (1) A4 版横書き（1 ページは 40 字× 40 行）（英文 20 ワード× 40 行）で 8～10 ページ（図表、注釈、参考文献等を含む）。
- (2) 1 ページ目は、まず、下記の項目を明記し、□（罫線）で囲む（1 行に入らない場合は、ポイントを下げて調整する）。
 - ① 論題名（メインタイトル）
和文 14 ポイント（明朝）、英文半角 10.5 ポイント（Century）
 - ② 副題（サブタイトル）
和文 12 ポイント（明朝）、英文半角 10 ポイント（Century）
 - ③ 所属・氏名
和文 11 ポイント（明朝）、英文半角 10.5 ポイント（Century）

(例)

<p>～のマネジメントに関する事例研究</p> <p>A Case Study of Management of ～</p> <p>近畿大学経済学部□□□□□田中□敬一</p> <p>Kindai University □□□□□ Keiichi Tanaka</p>
--

- (3) 最終ページの 36 行目以降は余白とする。
 - (4) 本文構成は、「はじめに」(Introduction)、「章・節（1.、2.・・・）」(Chapter1,2・・・)、「項（(1)、(2)・・・）」(Section (1) (2)) 等とする。
 - (5) 本文中に、目次、構成等の表示はしない。
 - (6) 本文は 10.5 ポイント（明朝）（10.5 ポイント，Century）とし、引用部分の表示、図・表の出展表示、文末注釈については 10 ポイント（明朝）（10 ポイント，Century）とする。
 - (7) 表のタイトルは「表 1・・・」(Table.1) とし、当該表の上部に表記する。
 - (8) 図のタイトルは「図 1・・・」(Fig.1) とし、当該図の下部に表記する。
- ※ [6. 報告論文の執筆要領] に関するお問い合わせは、本部事務局 (jsam.headoffice@gmail.com) までお願いします。

7. キャンセルについて

大会での報告機会を確保したにもかかわらず、大会当日・当時刻に、相当の理由なく欠席されると、次年度における全国大会での報告ができなくなります。欠席せざるを得ない事情が発生しましたら、できる限りすみやかに実行委員会までご連絡ください。

8. その他

何かご不明な点がありましたら、「実行委員会アドレス」、もしくは本部事務局 (jsam.headoffice@gmail.com) までお問い合わせください。

入会者のお知らせ

入会者	ご所属	担当支部	承認日
竹川 充	福井大学	北陸	2025/11/20
長谷川 優	静岡県立大学	中部	2025/12/31
渡邊 浩司	三菱UFJフィナンシャルグループ	関東	2026/ 1/16
村井 淳	東急株式会社	関東	2026/ 2/24
尾中 謙治	農林中金総合研究所	関東	2026/ 3/23
板倉 沙美	東京都立産業技術大学院大学	関東	2026/ 4/ 6
堀 貴史	リープ株式会社	関東	2026/ 4/ 6

実践経営学会事務局からのご連絡

■住所・勤務先などの変更届のお願い

住所や勤務先、メールアドレス等が変更になった会員の方は、
jsam.headoffice2@gmail.com（本部事務局情報管理専用メールアドレス）までご連絡ください。

■会費納入のお願い

会費納入の通知をお届けしますので、よろしくお願いいたします。学会活動は会員の会費によって支えられております。全国大会および各地域支部会における報告資格は「年会費を納入済みの会員」となっております。ご注意ください。

会員情報などのお問い合わせ・ご連絡先は、jsam.headoffice2@gmail.com まで

■学会ホームページにて最新情報を掲載しております

実践経営学会ホームページ (<http://www.jsam.org/>) では最新情報を随時掲載しております。各支部からの情報やその他のお知らせを掲載しておりますので、ホームページをご活用ください。また、ご登録いただくことにより、ニュースをメールで受け取ることが出来ますので、ぜひご利用ください。

実践経営学会 JAPAN SOCIETY FOR APPLIED MANAGEMENT

発行日：2026年5月25日

発行所：実践経営学会

発行者：会長 板倉宏昭

[本部・本部事務局] 〒140-0011 東京都品川区東大井 1-10-40 東京都立産業技術大学院大学 板倉宏昭研究室内

制作：(株)マインド